

依れば大體 10 年倍加の増加率である。之は飛躍する今日の日本には全然當らぬものと信ずる。自分は今日の消費の状態より推定すれば 5 箇年計畫の如きは現在の生産數量の大體 2 倍を目標とすべきものと信ずる。夫でも獨逸、ソ聯の生産數には達せぬのである。日本の國力、日滿一如の經濟體系に於て、更に近く日滿支の協同體系の經濟ブロックを想定すれば尠くとも獨逸の現状位のものを次の 5 箇年計畫即ち第 2 次 5 箇年計畫の目標とすべきであると信ずるものである。

(2) 日滿支協同の經濟體系に於ける鐵鋼政策 日滿支の協同體系を示す經濟ブロックを考ふる時、其の人口に於て世界の 1/4 の 5 億を下らぬであらう、其の面積に於ては世界の 1/10 に當るのである。其の資源の狀況よりするも大體に於て此のブロック内には獨、佛、伊を一括した以上の資源を保有してゐるのである。實に其の前途は洋々たるものである。

我日本の將來は東亞新秩序の建設を前提とし歸納として其の經濟政策を樹立しなければならぬことは、今更説明を要せぬところである。鐵鋼政策が其の經濟政策の中樞をなし、全産業陣の中堅を形成せねばならぬことも亦収々を要せぬところである。

果して然りとせば今日の製鐵計畫にしても鐵鋼政策にしても鐵鑛石を其の領域内に求め得ずして之を外國に仰ぎ、自由貿易主義の觀念に支配されて建設せし過去の外國依存の鐵鋼計畫は、直ちに再検討をなすべきである。此の時に當て猶過去の情勢に支配されたり、過去の過誤を其の儘反省せず踏襲する如き因縁、情實に依てはならない。誤まれる過去を精算し、誤まれる計畫は之を改めて、新たなる經綸を行ふの心構と氣魄がなくてはならぬ。

此の前提に於て鐵鋼政策を按する時は日本は徒らに鐵鑛の原料資源に乏しき日本内地に無理な熔鑛爐を建設する必要はないのである。而して外國依存の屑鐵を原料とする普通鋼及特殊鋼を生産する屑鐵法の平爐や、電氣爐の濫設を急ぐ必要もないのである。東亞の全局を達觀して其の需給趨勢を案し適地適業主義に則した鐵鋼の増産計畫を樹立すべきである。日本は須く日滿支全體の綜合したる結果に於ての生産の最高擴充増加を計るべきである。

而して其の生産設備立地の選定の如きは日滿支協同體のフキラーとして之を公正適切に配分綜合することを目標として鐵鋼政策を確立せねばならない。(終)

## クルツプ式レン法の現況に就て

(鐵と鋼第 25 年第 11 號 976 頁)

フリードリヒ、ヨハンゼン博士

通譯者 鈴木泰次郎君

司會者 長谷川 熊彦博士

只今御指名に依りまして私から極く簡単にヨハンゼン博士の御來歴を御紹介申上げる事に致します。

同博士はクラウスタール大學の御出身で御座いまして製鐵方面には多年の御研究を積んで居られるお方で御座います。殊にマグデブルグの工場の研究部に居られまして皆さん御承知のクルツプ、レン式製鐵法を小規模のパイロットプラントに依りまして研究をお續けになり更に之をクルツプの工場で工業的に御始めになり、又フランケンスタインの工場でも貧ニツケル鑛に此方法を應用して好成績を擧げて居り其後獨逸では數個所に此種の工場が設立される様になりました。

是れに關しましては御承知のやうに滿洲、朝鮮或ひは内地の各製鐵業者が大變興味をお持ちになりまして、先年來調査を進められた結果、三菱鑛業會社、昭和製鋼所に於て率先して此の方法を輸入されまして、貧鐵鑛から特殊の製鐵をお始めになつて居られる事は皆さん新聞等で御承知と存じます。其の内容に就きまして、只今同博士からレン式の現況に就てお話し下さる事になつて居りますが當のクルツプ會社でも此の方法に非常に重きを於かれまして、現今ではクルツプレン式部と云ふ特殊な部門も出來て居りまして、ヨハンゼン博士は其の部長になつてお出でになるそつて御座います。

幸ひヨハンゼン博士が 8 月中旬に東京の方に御出でになりましたので、我が鐵鋼協會の會員に對する御講演をお願い申しました所、御快諾下さいまして只今よりお話し下さる事になつて居ります。

又クルツプ會社の東京支店の鈴木さんが同博士と御同行になりまして御通譯に當られる事になつて居ります。

一寸簡單で御座いますが、御紹介旁々前置きを申上げる次第であります。

(鐵と鋼第 25 年第 11 號に掲上の通り)

山本瀧州工業會長 非常に有益な且つ興味深い御講演を下さいました所の小日山理事長及びヨハンゼン博士、並に御通譯下さいました所の鈴木さんに對しまして失禮で御座いますが會を代表しまして此の席から厚く御禮を申し上げます。大分時間も遅くなりましたから齋藤博士の閉會の辭をもちまして此の會を閉ぢる事に致します。(拍手)

## 閉會の辭

日本鐵鋼協會會長 工學博士 齋藤 大吉

今夕は昭和製鋼所の小日山理事長及獨逸のヨハンゼン博士に御講演を御願ひ致しまして通俗講演會を開催致しました譯であります。小日山理事長は「滿洲の製鐵事業の特徴」と云ふ事に就いて一時間餘に亘つて御熱心に御講演下さいました。私は不幸にして途中餘儀なく外出致しましたので其の始めと御結論の所しかお聴きする事が出来ませんでした。要するに小日山理事長の御意見としては、「滿洲は資源調査の結果鐵鑛資源が非常に豊富であり、尙將來も鐵鑛資源が発見されるであらう。現在でも多分 35 億噸以上は存在するであらう。又石炭の如きも滿洲事變當時滿鐵當路者に依つて調査された所は、僅かに 48 億噸と云はれて居つたのであるが、今日では 180 億噸、或ひは 200 億噸とも稱せられ、僅に 4 倍以上の増加